

2026年1月5日

2026年 社長年頭挨拶

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、年頭挨拶として、社長から全役職員に向け、メッセージを送りました。社長メッセージの概要は以下のとおりです。

1. 新たな年を迎えるにあたって

昨年12月に発生した青森県東方沖地震で被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

2026年は、3カ年プログラム「MY Mutual^(注) Way II期」のゴールをみすえる集大成の年です。これまで、私たちは「社会課題の解決への貢献」と「グループベースの持続的な成長」をめざし、保障とアフターフォローという従来の役割を大切にしながら、「生命保険会社の役割を超える」という合言葉のもと、「シェア拡大」と「共創を通じた多元的価値の創造」に取り組んできました。その結実に向ける年として、私自身も覚悟を新たにしています。

2. 不確実性の高い経営環境のなか、お客さま満足度は過去最高を更新

2025年は、国内外ともに不確実性が一段と高まりました。海外では、米国での新政権の発足により、保護主義的な姿勢が鮮明になり、国際貿易や金融市場に大きな影響を与えました。欧州や中東でも地政学的に不安定な状況が続いています。国内では、金融正常化に伴う金利上昇や円安が資本コストや購買力に複雑な影響を及ぼしています。

生命保険業界においては、保険業法の一部改正や監督指針の見直しにより、「顧客本位の業務運営」のさらなる深化が求められています。

このような環境下で、当社は確かな前進を遂げています。

国内では、QOL応援プログラムを開発し、循環器病やがん対策を展開するとともに、長期資産形成ニーズに応える商品を拡充しています。また、イオングループとの包括的パートナーシップ契約を締結し、健康増進や地域活性化の取組みを全国に広げています。海外では、L&G社との戦略的提携やバナーライフ社の買収合意等、グローバルでのプレゼンス強化を図っています。さらに、「働き方選択型70歳定年制度」の導入検討や、AIの活用による業務の高度化・効率化等、経営基盤拡充に資する取組みも推進しました。

経営の通信簿である「お客さま満足度・NPS郵送調査」の2025年の結果は、総合満足度、MYリンクコーディネーター（営業職員）への満足度、商品満足度のいずれも過去最高となり、きわめて良好な結果となりました。特に、MYリンクコーディネーターへの満足度は6年連続で最高値を更新しています。まさに、従業員のみなさんの努力の賜物であり、改めて感謝します。

3. 「熱い想いを推進力へ」。未来を切り拓く年に

迎えた2026年。みなさんにお願いしたいことが三点あります。

一点目は、「コンプライアンス違反の根絶」です。当社にはルールを破ってまでやる仕事は一つもありません。一人ひとりが「根絶」の趣旨を自分ごと化できているかが大切です。再度、決意と覚悟を固めてください。

二点目は、現中期経営計画の「完遂」です。

2026年の干支である「^{ひのえうま}丙午」は、火と火が重なる非常にエネルギッシュな干支であり、「情熱」「行動力」「改革」「挑戦」がキーワードです。この数年間は平たんな道のりではありませんでしたが、みなさんの努力と覚悟が、今の私たちをつくり、未来への選択肢を広げてくれました。本年は、その努力を成果と誇りにつなげる年にします。掲げるキーワードは「熱い想いを推進力へ」です。現中期経営計画のゴールをみすえた年だからこそ、やり残しを埋める1年ではなく、未来への跳躍台となる1年にしましょう。

三点目は、10年計画「MY Mutual Way 2030」でめざす姿「『ひとに健康を、まちに元気を。』最も身近なリーディング生保へ」の実現に向けた準備です。

私たちを取り巻く環境はこれまでにないスピードで大きく変わっています。これからの社会では、「生命保険会社」という枠を超えて、世界、日本、そして地域社会で健康や活力を支える存在になるという役割が今よりも求められます。AIやデジタルを活用しながらも、「ひと」ならではの価値、温もりや共感、地域との絆を大切に、私たちにしかできない価値を創り出していく。私は、みなさん一人ひとりに「自分たちがこの会社と社会の未来を創る」という強い意志を持ち、新しい成長の道筋を描き、実行していったほしいと思っています。

みなさんの挑戦と創意工夫が、明治安田の新しい歴史を切り拓く原動力になります。

熱い想いを推進力に変え、未来を切り拓く1年にしましょう。

4. おわりに

新年は、少しいつもより長い時間軸で物事を考えるのにふさわしい時だと思います。

医療技術の進歩により、人間の臓器の多くが人工的に代替可能となり、寿命が大きく伸びる未来も想像できます。

また、格差と分断の拡大や民主主義の危機と、AIの進化が重なったことで世界は予見不能とも思える領域に至っています。世界では、「非効率な民主主義をやめ、AI中心の効率的な社会を創ろう」という意見さえあります。

強権・専制国家とAIが支配する社会は、安心や効率をもたらすかもしれません。しかしそれは、私たちが思い描く、笑顔溢れる未来の社会とはかけ離れたものです。

私たちは、偶発性に充ちた人生や不完全さや弱さを持つ人間をいとおしく思っています。一回限りのかけがえのない人生だからこそ、何気ない日常の一瞬に、宝物のような価値を見出しています。

「ひと」と「ひと」、「ひと」と地域社会の絆を紡ぐこと。「ひと」がリアルに交流できるサッカースタジアム、明治安田ヴィレージ、イオンモール、公民館で「サードプレイス」「居場所」を育むこと。こうしたことが、未来世代に人間の尊厳や幸せを感じやすい社会を残すことに、間違いなくつながる。そうした絆は相互扶助の精神のうえに成り立つ保険事業にとっても、ひいては民主主義にとっても大切な基盤でもあります。年のはじめに、このことをみなさんと共有したいと思います。

私たち一人ひとりの一歩が、社会の進化と未来を形づくりします。

みなさんの熱い想いが、未来を切り拓く推進力となります。

変化を先取りし、攻めて、形にしましょう。「なぜ、それをやるのか」「意味」を語り続けましょう。自分の中の「熱い想い」を大切にしましょう。

みなさんの献身と挑戦を心から誇りに思い、全力でエールを送ります。

2026年、熱い想いで未来を切り拓く。本年もよろしくお願いいたします。

(注) Mutual は「相互の」という意味であり、保険会社のみに認められている特別な会社形態「相互会社」も意味しています。相互会社は、ご契約者（社員）が会社の構成員であることから、ご契約者の利益を最優先とした長期安定的な経営が可能となると考えています

以 上